

2007年11月～

人間歯科学研究会報

人間歯科学研究会

〒567-0883 茨木市大手町 7-26

FAX 072-626-6519

E-mail yoshihara@gold.ocn.ne.jp

いい歯の日に思う

突然の秋そして冬、体がついていけなくてノロウィルスや早期にインフルエンザが流行しないか心配なこの頃です。

11月8日の「いい歯の日」には力強いご支援をいただき有難うございました。予防医療を重視している人間歯科学研究会は、発足当初（2001年）から11月8日を年間第一の目標にしてきましたが、全国的にその方向をむきだしたことが嬉しい限りです。

ブラッシング講演依頼のあった福井県では、しっかりしたマニュアルがCD化されており、講演しながらもマニュアルを崩すのではないかと心配で、予定していたブラッシング・アカデミーが何回も軌道から外れて、冷や汗をかき結果となりました。勉強が進んでいるところでは、恥かしい思いをすることもまた勉強です。

一方で、身近でありながら1歳3ヶ月健診でまだ上下4本ずつしか歯が生えていないのに、「仕上げみがき」と称して完成度の低い歯ブラシがいまだに手渡されていることは悲しいことです。たしかに、20年以上前に「仕上げみがき」という言葉を使いましたが、それは「母親が Dr. Bee Mamma 歯ブラシを使用した場合」の発表だったのです。しかし、恐れていた言葉のひとり歩きになってしまったようです。「小さいヘッドと丸細首の Dr. Bee シリーズ歯ブラシは奥まで届きやすい」という発表が、「ヘッドが小さくないと

最後臼歯まで届かない」と表現され、これもまた言葉のひとり歩きをしているようです。研究発表や講演会では注意が必要だということを身をもって経験するのもこの時期です。

地球温暖化をどう考える

一向に進歩の気配が見えないから、歯科医院ばかりが増えて、今やどこに行ってもあるといわれているコンビニエンスストアの3倍になったというのに、「歯科医院で売れる歯ブラシが増加しないのはやむを得ない」などと言う業者がいるのは情けないことです。売上だけを伸ばそうとして進歩を無視し完成度の低い歯ブラシへ転嫁するというのは、明らかに歯科界のレベル低下の一途を辿っていると危惧せざるを得ません。したがって、平穴植毛の Dr. Angel シリーズ歯ブラシが「変わった歯ブラシだ」ということだけで処理されてしまうのは残念です。

多分、京都議定書や地球温暖化をに興味がないか、意識されない方たちには某大学教授の「所詮ブラシはブラシ」という考えと同じで Dr. Angel シリーズ歯ブラシが地球環境までも考慮して作られているとは思いませんでしょう。

地球環境を考えての物作りは、咀嚼発育訓練や咀嚼機能回復あるいは頭部、顎、顔面、咀嚼咬合歯列の老化予防具である CAM CAMシリーズについても言えることで、特殊シリコーンの開発には単なる思い付きではなく長期の経験と研究から得られたものであることは知っていただきたいと思います。

歯磨剤も同じで、化学製剤を多数混入し口腔環境を改善するためなのか歯磨剤の変質を避けるためなのかわからないような物は、私たちの子どもやその先の子孫までの口腔内環境だけではなく発育・発達を考えて D.N.A を傷つけたり壊さないように、使用すべきでない時代に来ています。

どうするべきかは我々学識のある歯科医師が結論を出すべきでしょう。